

DAICHU news

弊社の様々な出来事を発信してきます！！

初めまして、新入社員の味岡です。宜しくお願いします。
4/1に新年号が『令和』と発表され、このDAICHU news も平成最終号！
閲覧ありがとうございました。これからも、宜しくお願いします。

新入社員紹介

第16期 第一回全体会議



今回の受賞者



仕事部門1位 岡田正博さん(写真左)
プライベート部門1位 足立星奈さん(写真右)

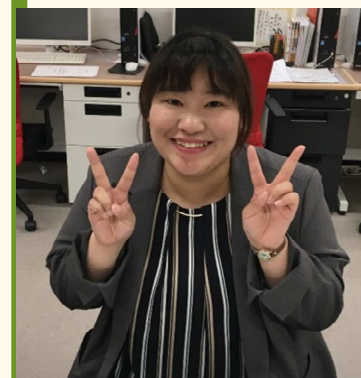
4/13に16期 第一回全体会議を行いました。
今回は、福岡県の支店とスカイプを使用した報告を行いました。
前回同様に社員それぞれの目標を振り返り、進捗・達成度を発表しました。
100%達成した方や、まだ0%の方まで社員全員が思い思いに話していました。

尾張五市商工会議所 合同企業説明会

4月10日に、一宮駅ビル7階シビックホールにて尾張五市商工会議所 合同企業説明会が開催されました。その中に大中環境も出展しました。まだ多くの新卒の方が就職活動に慣れていない様子でした。
そんな中でも、多くの就活生さんとお話して、大中環境の魅力を伝えることができたと思います。

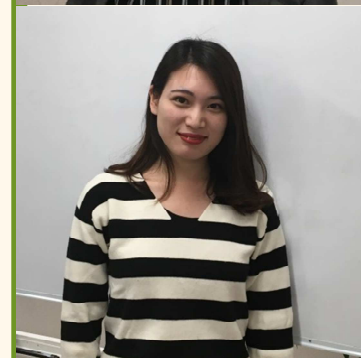


成田 亜季保(営業部)



こんにちは。新年度から入社しました、営業部の成田です！早く仕事を覚えて、会社の役に立てるように頑張りたいと思っています！趣味はあまり上手ではないですが、大道芸です。シガーボックスという道具をやっています。最近練習できていないので、久々に練習したいと思いました。まだまだ、慣れない事ばかりで大変ではありますが、元気に楽しく生きていけたらと思っています。宜しくお願い致します！

川越 千遥(営業部)



こんにちは！営業部の川越です！
解体業で女性の営業は珍しいということなので、モデルになれるように、元気いっぱいの営業を目指します。
国内、海外問わず旅行が好きです。おすすめの旅行先等あれば教えて頂きたいです。常に笑顔を心がけて頑張ります！これからよろしくお願い致します！

當間 美貴(営業部)



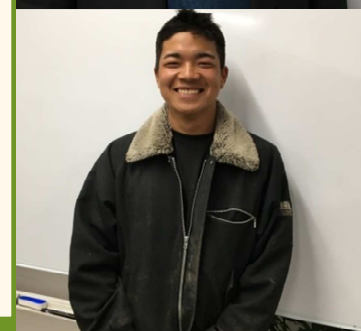
はいさい！4月から入社し営業をやらせて頂きます當間です！
趣味はアウトドアでよくキャンプに行きます。社会人として慣れないこともあります。かっこいい先輩方の背中を見て頑張っていきたいと思います。現在は先輩社員に同行させて頂いているので、見かけた際はよろしくお願いします！！！！

味岡 勇太(広報部)



広報担当です。休日はよく映画館に行きます。去年の12月から毎月一回は通っています。
大中環境の魅力を一つでも届けることが出来ればいいなと思います。Sketchの活動でも見かけた際は気軽に声をかけてください。SketchのブログやTwitter等を担当しています。これから、よろしくお願いします。

西谷 綱二(現場職人)



こんにちは！現場の西谷です。18歳でまだまだこれからなのでいち早く仕事を覚えて現場を託されるように頑張りたいと思います！
趣味はバイクです。いじったり、ツーリングするのが好きです。仕事でお金を貯めてもっといいバイクを買えたらいいなと思っています。
これから、よろしくお願いします。

解体工事の歴史

解体工事の名前の由来、解体工事っていつの時代から行われているかご存知ですか？

実は、遠い昔の話ではないのです。時代の流れと共に変わっていった歴史を感じてください！



①江戸時代は、火事が起こると近隣の家を壊し、火が広まらないようにしていました。当時は、とび職や大工が解体工事を行っていました。

鳶職や骨組みを壊し、大工は内装を壊す分担制でした。



④大正3年に大正博覧会が東京で行われた際、大規模な建築物が数多く建てられた。このような大規模な建築においても「壊し屋」は木材を1つも余すことなく解体し建物のすべてを古材として再利用していました。

このような解体方法が戦前まで安定的に行われていきました。



⑥戦後、空襲によって焼け野原が広がり、木造解体の仕事は激減した。そのため、空襲を免れ使わなくなった鉄骨造倉庫の解体の仕事を行うようになった。当時鉄鋼は非常に貴重な資源であり、年に1、2件この仕事があれば1年の収入には困らなかった。この仕事を10年ほど続け解体業の存続を図った。

その後は、木造解体の仕事を再開し、時代と共に鉄骨造も増えていきました。



⑧令和へと新年号へと変わりました。法や条例の改正によっての問題や騒音問題など、未だに抱える問題はたくさんあります。ですが、我々の力でこの新年号をより良い年にしていかなければなりません。

江戸

明治

大正

昭和

平成

令和

②建物の取り壊しを行う業者ができたのは

明治初期頃

江戸幕府の倒幕と共に大名の権利が落ちていきました。そのため大名は所有していた土地を運用できなくなり土地を売りに出しました。

そして、その土地を買い、新たな建物を建てる者がでてきたのです。

しかし、当時は木材が高級且つ不足していたため、木材は非常に貴重なものでした。そのため、既存の建物を壊して調達するしか家を建てる方法がありませんでした。

当時は壊して建てる人たちは「壊し屋」と呼ばれていた。

③その為中古木材の需要は高まり、中古木材を売買する市場が確立されていきました。市場で中古木材は新材の7割程度の価格で取引され、木材に傷がつくと価値が落ちるため建物を壊す際には木材を傷つけない方法で壊される手法が取り入れられました。



⑤戦時中、国の政策により「火事防止のために東京を区画整理する」という提案がされた。その時に壊し屋の組合の立ち上げもなされました。

当時の行政は、壊し屋は荒々しく壊すと思っていたが、課長室を解体し即座に元通りに組み直した。

行政はその手際の良さや丁寧さから、壊し屋ではなくほかの名前にしようと模索された。軍の大佐の体を解す(ほぐす)という意味を込めて「解体」という言葉が生まれました。

⑦昭和後期～平成

次第に古材が売れなくなり、解体工事の機械化にともない、材料を古材として売るといった目的の解体業者は姿を消しました。

現在は、壊して出たもののほとんどをリサイクルし環境に配慮した解体を行っています。



株式会社 大中環境

〒494-0012 愛知県一宮市明地字山中25

TEL 0586-69-1988

FAX 0586-69-1987

E-mail daichu-kankyo@daichu-env.com

HP <http://www.dc-env.com/>

<http://www.jiban-kairyo.jp/>

- ・総合建物解体業
- ・地盤改良業
- ・造成工事業
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・一般廃棄物収集業